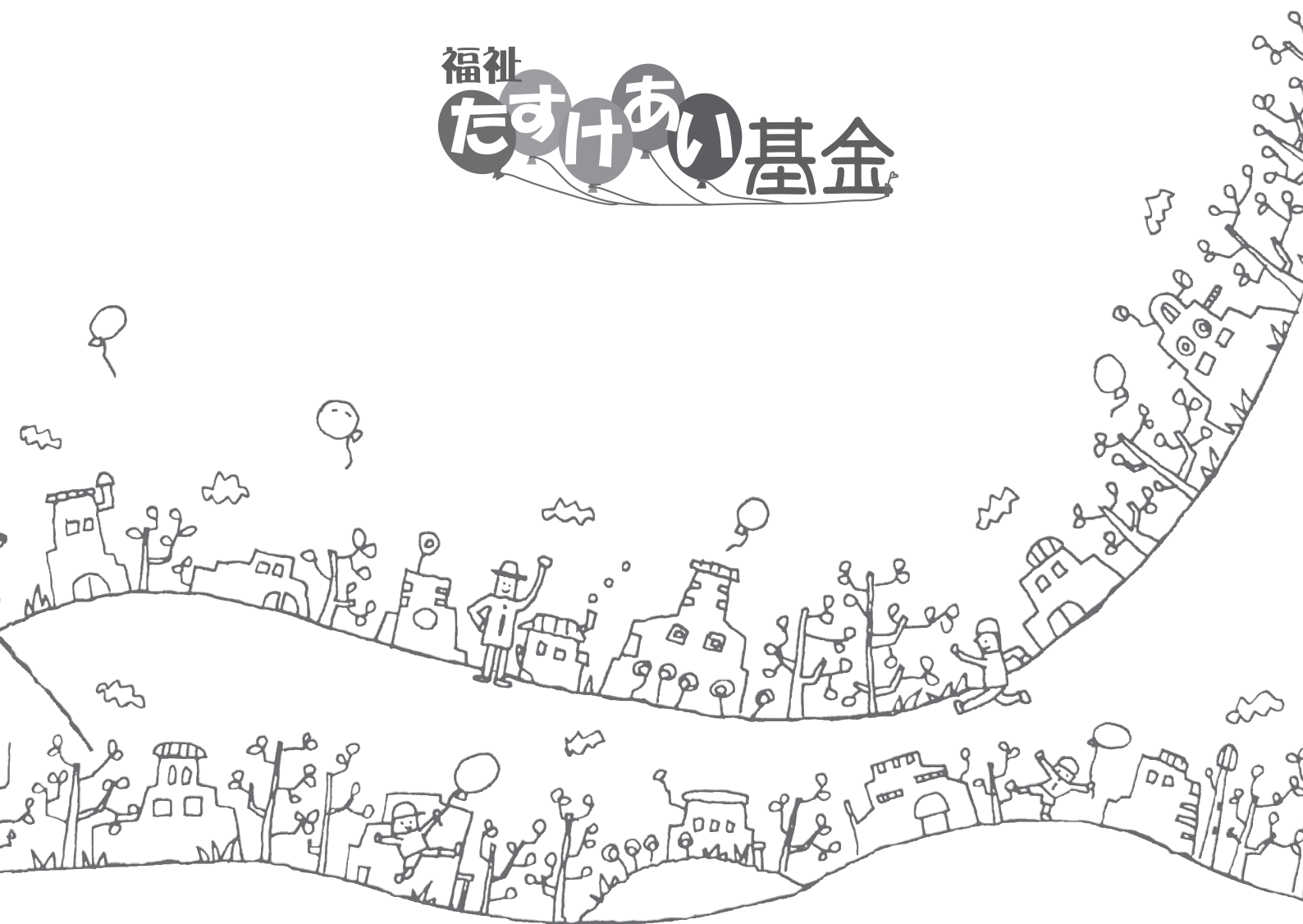


Vol. **2**

福祉たすけあい基金BOOK

4期の助成団体紹介

福祉
たすけあい基金



公益財団法人

かながわ 生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人かながわ生き生き市民基金は・	3
福祉たすけあい基金とは	4
NPO 法人 Ocean's Love	5
海老名女性支援電話「そよ風」	6
おもちゃひろばロリポップ	7
NPO 法人ハッピーマザーミュージック	8
NPO 法人湘南 NPO サポートセンター	9
ピアサポートよこはま	10
NPO 法人海さくら	11
NPO 法人赤いふうせん 地域活動支援センター工房和丘	12
子育て応援隊 FROM こうほく net ほいっぴ	13
NPO 法人ピープウ・ラボ	14
一般社団法人 結	15
南林間子育てネットワークせるくる	16
非営利型一般社団法人ファーストステップ	17
1 期～3 期福祉たすけあい基金助成団体	18・19
福祉たすけあい基金スタート助成について	19



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

＜投資して利潤を稼ぐことが経済＞という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

常設型で年2回助成を行っている福祉たすけあい基金は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラムエラベルは、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラムは寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外にも、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものといってよく、福祉たすけあい基金では高齢者・子ども・女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴

98%以上に当たる寄付が生活クラブ組合員1万1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。このことは福祉たすけあい基金の強みであり、弱みであると言えます。顔の見えるおおぜいの支持者をさらに広げつつ、ミッションを伝え地域の寄付者を広げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金には105団体から6,000万円を超える申請があり、45団体約1,560万円を助成しました。

1期～4期の実績

1期	助成2014年4月	申請34団体 約2400万円	助成9団体 451万4100円
2期	助成2015年2月	申請17団体 約700万円	助成12団体 394万4950円
3期	助成2015年5月	申請34団体 約2400万円	助成11団体 382万2000円
4期	助成2015年8月	申請20団体 約1000万円	助成13団体 338万9000円

申請事業活動の特徴

助成45団体の活動目的は、障がい支援12、子育て支援10、まちづくり4、高齢者支援・子ども支援・相談・移動支援が各々3、外国籍の子どもへの支援が2、防災・困窮・農・環境・学童が各々1でした。

生活の質の充実、移動支援、防災、環境、食、農などを通じたまちづくり活動、子どもや若者の貧困支援、人々と交流する居場所・デイなど、活動は多様に広がっています。

中でも、居場所・たまり場活動が12団体で実践され、子育て中の人や高齢者の居場所・たまりば・サロンなど人々が集う場のニーズがあることがわかります。

移動支援、防災、環境、食、農などを通じたまちづくり活動、子どもや若者の貧困支援の申請もあります。

市民活動の先駆性・有効性・参加性・持続性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性ととともに、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出しあい、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

委員長 小山紳一郎	（公財）ラボ国際交流センター 理事
田中 夏子	研究者 （前）都留文科大学 教授
米田佐知子	（特非）子どもの未来サポートオフィス 代表
奥山千鶴子	（特非）ビーのビーの 理事長
高城 芳之	横浜市指定NPO法人アクションポート横浜 事務局長
瀬下 章子	市民事業創出支援室 副室長
城田 喜子	生活クラブ生協 副理事長
小林 洋子	さがみ生活クラブ生協 理事



NPO 法人 Ocean's Love

代表者 鈴木 薫

茅ヶ崎市

助成金額
500,000 円

団体紹介

設立年月

2012年11月NPO法人設立
(活動は2005年から)

団体の目的・活動内容

サーフィンスクールを通じ知的障がいをもつ子ども達が社会とのコミュニケーションや自然と触れ合いながら感情あふれる健やかな成人になって欲しい。
全国各地の地域の方々と共にサーフィンスクールを行うことで、障がいを持つ人達とご家族への理解を深め、差別のない住みやすい地域社会になって欲しい。

取り組んでいる活動の思い

- ①スクール事業 全国各地の海岸でのサーフィン主催。参加者は各地域から募集のあったハンディを持つ児童。地元のサーファーがボランティアとして参加し、サーフィンスクールを行い社会参加、社会貢献の場を作る
- ②啓蒙活動チャリティーグッズ販売等を通じて活動を社会に広め障がいに対する理解を深める
- ③指導者育成、勉強会や講習会を通じて、活動への理解、障がいへの理解を深める

活動歴

2005年から年間1回サーフィンスクール開催
2012年より年間サーフィンスクール3～5回茅ヶ崎海岸にてサーフィンを開催
北海道、愛知、島根、和歌山、宮崎でも活動を開催
2015年は全国で13開催

団体情報

住所 茅ヶ崎市東海岸南4-11-47
パインヒルズ101号室
TEL 0467-81-5986
Mail info@oceanslove.jp

助成した事業・活動

Ocean's Love ボランティアサーフィンスクール茅ヶ崎開催

内容

ハンディのため社会参加・経験不足になりやすく、自信喪失に陥ることも多い知的障がいをもつ児童を、サーフィン体験で支援する。海は危険がつきもので、1人の児童がサーフィンにチャレンジするには4人のボランティアが必要となり、おおぜいの協力が欠かせない

助成対象

茅ヶ崎開催のスクール5件の費用の一部を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

2005年よりボランティア団体として活動を始め、2012年に特定非営利活動法人となり今年で11年を迎えました。

海というフィールドでたくさんの方々に継続して楽しんでサーフィン体験をしていただきたいという思いから、助成を申請しました。そして助成が認められ本当に嬉しいです。

これからもたくさん子ども達の笑顔を増やしていきたいと思っています。



一緒にパドルング



ボードに立ってライディング



最後は集合写真。
こんなにおおぜいがあつまりました

団体紹介

設立年月

2007年6月

団体の目的・活動内容

社会の変化による地域での人間関係の希薄さから自分の悩みや不安を話す身近な相手を見つけることが困難になっています。家族の問題、職場や近隣の悩み、心の健康に関する事等に傾聴による電話で応えることで地域セーフティネットの一助としたい。

取り組んでいる活動の思い

私たちが日常生活の中で悩んだ時、身近な人に話すことで気が楽になったり、解決の糸口を見つけたりすることが、年々むずかしくなっています。ひとつには社会の変化による地域での人間関係の希薄さが原因ではないかと考えています。

日常の様々な問題のみでなく、DVや児童虐待、家族、夫婦、親子の関係から引き起こされる心の健康に関わる問題の増加なども、人間関係の希薄さと密接な関わりがあると推測しています。

助言や指示を与える人生指南的な相談ではなく、傾聴を基本姿勢とした女性支援電話相談窓口を開設しています。DVやセクハラを権利侵害とは自覚せず、つらい思いをしている人がいます。どうして自分はこれ程つらい思いをしないといけないのか、それがよくわからない、つらい思いを話す相手もないというような時、身近で信頼できるボランティアによる相談窓口があれば、その思いを伝え、共感を得ることができます。そして、そのことがその人の気持ちのゆとりを生み、安心を手に入れることに一役買うことになるでしょう。信頼関係が築きにくい現代だからこそ、その必要性が高まっています。

活動歴

1. 週2日（火曜日、金曜日）の電話相談活動
2. 年6回連続の相談員研修会の開催

団体情報

電話相談における匿名性の確保のため、表記することを控えてさせていただきます。

助成した事業・活動

傾聴を基本姿勢とする女性支援電話相談窓口

内容

相談は社会が厳しくなるにつれて増加（2007年22件⇒2015年11月までに199件）しており、新事務所を確保し、より充実した電話相談や支援活動を展開できる

助成対象

電話相談の環境を整えるためのエアコン購入費を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

「そよ風」は、2015年4月から新事務所を確保することができました。電話相談の充実とともに、新たな活用も考えることができます。相談日を増やしたり、メンバーとの話し合いの場や傾聴の技術を高めること等、活動が広がります。助成を受けてエアコンを購入できたことは「そよ風」にとって大きな支援となっています。

匿名性の高い電話相談を行うために、住所や写真は割愛させていただきます。

海老名女性支援電話

そよ風

046-235-7353

火曜日 10:00～13:00

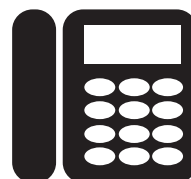
金曜日 13:00～16:00

●電話による相談です（無料）

●秘密は厳守します

●お名前などの個人情報はお聞きしません

●相談内容によっては、適切な窓口を紹介することがあります



おもちゃひろばロリポップ

代表者 西村 玲子

藤沢市

助成金額
300,000円

団体紹介

設立年月

2006年10月

団体の目的・活動内容

知的障がい児者向けのおもちゃのレンタルとニーズに合ったおもちゃの開発

取り組んでいる活動の思い

知的障がい児者のニーズに合ったおもちゃの需要は高いものの、市販のものは少ないのが現状。本人やその家族、支援者のアイデアを少しでも具現化したいという想いから活動をスタートさせた。会員によるモニタリングにより改良点を加えることでより多くの利用者に活用できるおもちゃの開発を行いたい。長い目で本人の自立を促す一助となることを目指している。

活動歴

地域の特別支援学校では授業の一環として利用されている。デイサービス事業所や生活介護事業所などの小学生から成人を過ぎた大人に至るまで幅広く活用されている。

団体情報

住所 藤沢市鵜沼桜が岡 1-2-6
TEL 0466-35-7204
Mail toylollipop@gmail.com

助成した事業・活動

知的障がい児対象の布製おもちゃの貸出し事業

内容

知的障がい児のコミュニケーションアップや生活習慣の定着を狙う布製おもちゃの貸出し事業。医療が苦手な子がおもちゃを使ったコミュニケーションを通して心臓検診や歯磨き、手洗い指導に慣れていくなど市販にはない効果が期待できる

助成対象

知的障がい児者向けのおもちゃのレンタルとニーズに合った試作品づくりと購入

助成を受けて…の思い・メッセージ

活動が認められ助成を頂いたことでおもちゃを発注する資金を得ることができ感謝します。試作品を作るための会議も熱を帯び、活発な意見交換を会員、スタッフ間で行っていますアイデアはあっても形にするノウハウと時間のない支援者と、作り手の間をこれからもつなぐ役割を強化していきたいと思っています。

本人なりの自立を進めるツールとしてこれからも活動を続けていきたいと考えています。



毎年春にロリポップ通信発行

試作品をつくるための会議



布絵本おばけ

団体紹介

設立年月

任意団体 2001年1月
法人化 2012年1月

団体の目的・活動内容

音楽とお話での子育て支援

- おやこコンサート
- おやこ響室、おかあさん響室
- 赤ちゃんと聴くコンサート
- 読み聞かせ講座

取り組んでいる活動の思い

孤独な子育てをしているおかあさんが、音楽とお話でリラックス&リフレッシュできるコンサートや響室を開催しています。コンサートは春夏秋冬と年4回の定期公演を3~4か所で、響室は毎月5会場7クラスで開催し、より、身近に、生の音楽とお話を体感できる体制をつくっています。パスポート制度も導入し、継続参加を促して、共に子どもの成長を見守っています。

音楽とお話を、おやこのコミュニケーションツールとして機能させることで、おかあさんの気持ちをほぐし、おやこの気持ちを響き合わせ、結果的に、子どもの健やかな成長につながっています。

また、ハッピーマザーミュージック自体、育児中のおかあさん演奏者のコミュニティとなっており、子育てと活動の両立をサポートしています。

活動歴

2015年度

おやこコンサート 14回

おやこ響室 (5会場7クラス×年10回)

おかあさん響室 (1会場×年10回)

赤ちゃんと聴くコンサート (9, 11, 1月)

読み聞かせ講座 (9, 10, 11月)

仲間たちコンサート (11月)

出張コンサート 24回

団体情報

住所 横浜市港北区大倉山3-19-20

TEL 080-3405-6695 (鈴木)

Mail info@happymothermusic.net

助成した事業・活動

孤独になりがちな育児を支援し、おやこで楽しめるコンサートの開催

内容

年4回実施するコンサートのうち春夏の出張コンサートで使用するおじいさん・おばあさん人形は出番が多く子どもたちに人気の人形だが、古くなりリニューアルが必要

助成対象

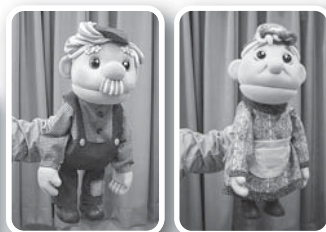
「おおきなかぶ」のおじいさん・おばあさん人形と衣装製作費を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

ハッピーマザーミュージックでは、コンサートと響室を定期開催しています。人気が高いコンサートのみ開催するのなら、経営上、安定するのですが、継続的な育児支援と新入会員の育成の場として響室をだいにししており、赤字が大きくなっています。

出張コンサートは、これまでは、問い合わせがあったものに対応するだけでしたが、人材が育ってきましたし、収益性も高いので、経営を支える柱として、打ち出していきたいと考えています。

お蔭様で、プロの作家に人形制作を依頼できました。出張コンサートで、さらに、ハッピーマザーミュージックの「音楽する幸せ」を広げていきます。



出張公演では「おおきなかぶ」で盛り上がります (写真は、新しくなった人形)



定期公演では、春に「おおきなかぶ」を演じます



花柄ブラウスと金パンツがハッピーマザーミュージックの衣装です

NPO 法人湘南NPOサポートセンター

代表者 坂田 美保子 平塚市

助成金額
170,000円

団体紹介

設立年月

2010年6月

団体の目的・活動内容

地域の課題解決に取り組む市民活動団体、地域活動団体の活動の悩みに耳を傾け「気づき」「つながり」「出会いと対話」「場づくり」を提案、具体的なサポートを通して、一人ひとりが自分らしく暮らせるまちを目指して活動している。

「ひらつか地域づくり市民大学」開催、団体の相談対応、メディア事業、情報誌発行、交流会開催等を行っている。

取り組んでいる活動の思い

人口減少・本格高齢期に入り、市全体としての協働まちづくりの具体的な道筋が見えない閉塞感を打破するため“思いを持つ人たちが主体的に動き、総合的な地域力を発揮できる仕組みづくりが必要である。

地域づくりの担い手育成を目的とした「ひらつか地域づくり市民大学」をこれまで3年間開催（延べ人数83名、公開講座含む215名）。継続して受講された方々に呼びかけ2015年5月地域づくりサポーターズを発足。

地域づくりを進めるには“思いのある人々”が各地域の情報を知り、他地区へ発信し、コーディネートすることが重要であることがこれまでの取り組みからわかってきた。そのための仕組みを構築し、サポーターを継続的に増やすことで、横のつながりを促進していくことが有効と考える。

活動歴

市民活動相談対応、情報誌LIAISON発行「ひらつか地域づくり市民大学」開催
交流会開催、団体事務局サポート、メディア事業（団体チラシ・パンフ作成、Web製作、ビデオ撮影・編集等）

団体情報

住所 平塚市長持568-6
TEL 070-6662-2455
Mail shonan@snposc.org

助成した事業・活動

地域の枠を超え横断的に地域づくりをサポートする「ひらつか地域づくりサポーターズ」育成事業

内容

ひらつか地域づくり市民大学の受講生サポート。市内の地域づくりの情報収集・調査研究を行い、元気地域づくり事例集（仮称）作成発行、地域づくり研修会の実施

助成対象

サポーター研修会の講師謝礼費及び広報用パンフレット作成費用を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

人口減少社会の今、地域づくりは自治会を含む地域活動団体、テーマ型市民活動団体、行政、地域に拠点をもつ事業者等が共に手を携え、取り組まなければならない問題です。しかしながら市行政も地域づくりの担い手育成に手をこまねているのが現状です。地域づくり市民大学の必要性を理解し継続開催を希望する方々が、地域づくりサポーターズとなって、横のつながりを活用しながら、他地区へ情報発信していただくことで、より大きな広がり期待できます。今回、助成金をいただいたことは、サポーターズの育成を後押しする大きな力となっています。



地域づくりサポーターズ会議で、各地域の地域づくりについて意見交換を行っています



地域づくりの事例収集のためインタビュー。時系列で情報を整理します



ひらつか地域づくり市民大学でファシリテーター役を務めるサポーターズの皆さん

団体紹介

設立年月

2010年7月

団体の目的・活動内容

国民の2人に1人ががんになる社会において「がんになっても安心して暮らせる地域社会の構築」を目指しています。がん体験者によるがん患者、家族等へのピア(仲間)サポート活動。がん啓発、正しいがん情報の発信

取り組んでいる活動の思い

電話、面談によるピアサポート事業を週2回実施しています。

担当しているサポーターは全員ががん体験者です。自分の治療や病気との向き合い方の経験と「がん体験者コーディネーター」として得たがんに関する専門知識で闘病中のがん患者、家族の方をサポートしています。

セカンドオピニオンの取り方、関連情報の紹介、社会資源の活用方法等に関して情報提供をしています。

「自分と同じがん患者と話したい。」

「〇〇のことについて知りたい。」

「家では弱音がはけない。」

そんな患者さんたちのこえに応えて月1回グループ単位でのサロンを実施しています。

毎回テーマを決めて、お茶を飲みながら同じ病気の人と心を開いておしゃべりをしています。

専門家を招いての講座も好評です。

活動歴

ピアサポート

毎週 水・金曜日 10:00~14:30

市民活動共同オフィス

ピアサロン

毎月 第4月曜日 13:30~16:00

かながわ県民サポートセンター

団体情報

住所 横浜市中区桜木町 1-1-56

みなとみらい21クリーンセンタービル5階

TEL 045-681-5255

Mail peer@cancernet.jp

助成した事業・活動

ピアサポート(相談支援)、ピアサロンの開催

内容

がん体験者が地域で暮らすがん患者の生活をサポートするために行う患者や家族のためのサロンの開催、および電話相談

助成対象

チラシの印刷費・デザイン費とサポーターの交通費を助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

がん対策基本法で「ピアサポート」の実施をうたっていますが、ほとんどが病院内での活動です。

地域ではこうした事業の運営を担う公的機関はありません。活動をひろく知っていただける手段はチラシの配布です。助成を受けて神奈川県内の医療機関、公的機関にチラシを配布して活動を知っていただくことができました。その効果で相談支援の件数は増えています。

これまで収入手段がなくサポーターには交通費が支払えませんでした。助成による交通費の支給で安定してサポーターを獲得することができました。

増加する相談支援に応えながら地域でがん患者と家族をサポートしていきます。

ピアサポート事業の共同
オフィスの様子



ピアサロンで「元氣に見える化粧法」の講座開催

NPO 法人海さくら

代表者 古澤 純一郎 藤沢市

助成金額
340,000円

団体紹介

設立年月

2015年8月

団体の目的・活動内容

江の島を中心に、楽しみながら環境問題を考える美化活動および環境に関する教育・啓発・講演・出版事業ならびに環境に関するイベントの開催事業を行い、主体的に環境問題を考える人の輪を広げ、次世代の地球環境の改善と豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

取り組んでいる活動の思い

当団体は「かつて江の島の海に生息していたタツノオトシゴが戻ってくる」ことを目標に2005年より毎月のごみ拾いを主軸に「楽しくファンキーに」を合言葉に活動してきました。

近年では毎月1回100名前後が参加し、雨の日も風の日も、海岸ごみ拾い活動を続けてまいりました。

楽しくやるからこそ、自発的に、継続的に活動をやっていると信じ、これまでにを行った活動は「毎月選定!ごみ拾いファッション」「湘南ベルマーレ コラボごみ拾い」「ビーチお笑い」「ビーチプロレス」など多岐にわたります。

また、地域との結びつきも強く、公益財団法人神奈川海岸美化財団からゴミの回収やトンブ・軍手等の道具の支給などの支援を頂くほか、タツノオトシゴ×江の島を合体させたオリジナルキャラクター「エノシゴくん」は藤沢市の観光コンテンツ「藤沢市キュンとする街。藤沢」のイベントにも招待されるなどその交流は非常に活発です。

活動歴

2006年からのゴミ拾いの実績は23.74t、参加者は延べ6,382人

団体情報

住所 東京都目黒区柿の木坂1-23-14
TEL 03-5726-9941
Mail info@umisakura.com

助成した事業・活動

江の島海岸における水質検査事業

内容

江の島海岸の水質を改善するために、アマモを植える活動を計画。そのために必要なのが水質検査事業で、このデータを分析し水質改善のための方策を検討する

助成対象

水質検査キットの購入費用を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

約10年間の江の島におけるごみ拾い活動を経て、私たちは次のステップへと歩みを進めようとしています。

拾っても拾っても無くならない海岸ゴミ。その7割以上が街から来るゴミである事はあまり知られていません。

江の島を本当に綺麗な海にするために。私たちはこれからごみ拾いだけではなく、地元の方と協力しながら、海にアマモを植えるプランを立てています。そのためには水質検査が必須なのですが、今回ご支援を頂くことでこの計画を具体的に進めていくめどをつけることができ、深く感謝しています。これからも当法人に賛同して下さる、江の島を愛する多くの仲間と共に、必ず綺麗な海を取り戻したいと思います。

2014年5月17日(土)
湘南ベルマーレ コラボ ゴミ拾い



2014年7月5日(土)
海さくらゴミ拾い&ビーチプロレス



2015年8月22日(土)
どすこいビーチクリーン



団体紹介

設立年月

1984年4月 どんぐり作業所として設立
1988年4月 赤いふうせん 改名
2006年9月1日
地域活動支援センター工房和丘 改名

団体の目的・活動内容

知的障害者通所施設（定員15名）
障害者の日中の仕事場として開設。
作業として、はた織りを行っています。
社会人としての育成や健康維持にも取り組んでいます。

取り組んでいる活動の思い

地域で暮らし行くなかで、日中の仕事として、はた織りを行っています。
はた織りという作業を行うことで、働く楽しさや、仲間と助け合って仕事をする事、お給料を得て買い物や貯金をする楽しみも体験しています。
地域の人達に障害者の暮らしを理解してもらうために、年2回作品展を開催し作業見学や作品の販売も行なっています。
作業見学では多くの地域の方々の理解を得る機会になっています。
作品販売は利用者自身が行うため、地域の方々の作品への評価も直接に体験できる機会ともなっています。
奉仕活動として地域のゴミ拾いを定期的に行うことで、社会人としての奉仕活動を行い、地域の方々と挨拶や会話をすることで、地域とつながる努力をしています。
人により性格も、体質も、障害の状態も違うため、スタッフは常に情報交換をし、支援に役立てています。
健康に過ごせるようにストレッチやウォーキングも日々行っています。
学校で学んだ字を忘れないための書き方音読も行っています。

団体情報

住所 川崎市多摩区宿河原2-32-8
TEL 044-911-8114
Mail info@akai-fusen.jp

助成した事業・活動

障がい者の自立を支援する日中活動仕事場（地域活動支援センター）運営

内容

センターに通う障がい者は養護学校卒業生や在宅生活者で、年々重度化が進み経験の浅いスタッフの質の向上が求められる

助成対象

スタッフの講習会受講費、交通費の一部、その間の現場増員スタッフ費用を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

年々変化していく行政支援。それらの行政支援も、基本的な支援内容についての知識がなければ、利用者へ有効に生かしていくことはできません。もっと専門知識を学び、利用者支援を充実させたい…しかし、それらの資格取得や研修は受講料も決して安くはなく、また研修期間中の人員確保のための人件費の問題がありました。

この度助成金を頂いたことで、それらの大きな問題がクリアされ、「社会福祉施設長資格認定講習」を受講することになりました。約1年に及ぶ受講や4泊5日の研修等充実した講習内容で、また障がい者だけでなく、高齢者、生活保護など幅広く福祉の知識を学習できました。これらの知識を活用し、利用者の支援の充実、また職員会議などで知識共有に努め、施設全体の支援スキルアップを行いたいと思います。ありがとうございました。



書き方、音読、また音からの理解のために本読みも行っています。



日中の主な活動のはた織作業。織り方によってさまざまな模様が現れます。人気はスタンダード平織と、網代織。



みんな楽しみ月1回の調理の日。今日の作り方を聞いています。

子育て応援隊FROMこうほくnetほいっぷ

代表者 深谷 育美 横浜市

助成金額
350,000円

団体紹介

設立年月

2015年2月

団体の目的・活動内容

子育て中の当事者として、今必要なことを、地域の方や支援関係者と共に考えることで、実現できることを提案し、もっと子育てしやすい街を創っていくために活動するグループ「こうほくnetほいっぷ」。子育て家庭を手助けしたいと思っている人が意思表示できる統一マークを身に付けてくれていると、子育て家庭が外出時に手を貸してほしいと思うときに地域の人の声をかけやすくなる、というアイデアから「子育て応援隊」缶バッジを2014年11月に制作。2015年2月に自主グループ「子育て応援隊FROMこうほくnetほいっぷ」を立ち上げ、この缶バッジの継続的な普及活動に取り組んでいる。

取り組んでいる活動の思い

港北区は出生数が横浜市内で第1位の区であるが(年間3,800人程度)、子育て家庭が街中や電車利用時などに感じる気まずさや不自由さがあることは否めない。そのような状況の中「子育て応援隊」缶バッジを身につけた人が地域の中で増えていくことで、子育て家庭が外出等を控える機会も少なくなり、缶バッジをつけている人を探せば大丈夫、助けてくれる人がいると思えること、気持ちの面でも支えられることで育児への負担感が軽減される効果があると思われる。この缶バッジを身に付けていることで、子育て家庭だけではなく、相互に地域で声をかけやすくなるような「支えあいの輪」が子どもや子育て家庭を核として街全体にひろがっていくことを目指しています。今後も子育て家庭と関係性の薄いとされる層も含めあらゆる年齢層の方にこの取組を知ってもらうためにアプローチしていきたい。

活動歴

地域のイベントやお祭りなどに参加したり、東急東横線大倉山駅構内で配布キャンペーンを行ったりしている。

団体情報

住所 横浜市港北区篠原台町1-12-302
TEL 090-3449-3327(深谷携帯)
Mail ouentai.from.netwhip@gmail.com

助成した事業・活動

港北子育て応援缶バッジ普及プロジェクト

内容

子育て家庭と地域とをつなぐ「子育て応援隊」缶バッジの継続的な普及活動

助成対象

缶バッジの製作費用を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

子育てが大変なものという認識が少子化の要因の一つともいわれているが、その認識が少しでも変わるように、子育てを応援してくれる人という存在を目に見える形で増やしていきたい。8月に初めて駅構内で配布キャンペーンを実施したが、幅広い年齢層の方にこの取組を知ってもらう機会としてとても有効だったと捉えている。港北区内にはエレベーターが設置されていない駅を含め他にも4駅ある。駅はそこに住んでいる方や働いている方が利用しあらゆる年齢層の方が集まる場所であると思うので、この取組の趣旨を説明し配布していくことでより地域に広く浸透させることができると考えている。今後、他4駅でも配布キャンペーンを展開していきたい。



東急東横線大倉山駅での配布キャンペーンの様子(取組の趣旨説明をしたうえで、2日間で200個以上配布)



区内公会堂でのイベント参加者300名に配布(イベント開始前に趣旨説明を行いイベント終了後に配布)

団体紹介

設立年月

2011年2月23日

団体の目的・活動内容

障がいの有無に関わらず、主に子育て中の親子や地域の一般市民に対して、音楽療法を取り入れた各種事業を行うことで、よりよい親子の関係づくり、居場所づくり、地域のネットワーク構築をはかることを目的に活動しています。

取り組んでいる活動の思い

私たちは、障がいがある人もない人も、皆が地域で自分らしく生き活きと暮らすことができるよう、参加者ひとりひとりのニーズに沿った「音楽療法」を通じた活動の提供をしています。近年は、発表会やコンサートなどのイベントを開催することでその活動を広げてきました。「音楽」は精神的な癒しや、発散の効果だけでなく、楽しみながら学ぶことができたり、自己表現をするツールとして、用いることができます。また、人々が交流する場面ではとても自然な形で「人と人をつなぐ」役割も果たしてくれます。その特性を活かしながら、地域の中で様々な人を楽しみ・喜びを提供していける団体でありたいと思っています。

活動歴

- ・乳幼児親子のための音楽遊び「おんがくサークル スマイル」
- ・音楽療法室「レインボー」
- ・各種イベントや施設への出張講座
- ・子どもの育ち相談日「ぼれぼれ」などの実施

団体情報

住所 横浜市瀬谷区瀬谷4-7-19
TEL 045-461-9533
Mail pipulabo@yahoo.co.jp

助成した事業・活動

子どもの育ち相談日「ぼれぼれ」の開催

内容

子どもの育ちで気になっていることや、不安に思っていることを相談員や発達に関する専門家に個別相談ができる場、または集団での勉強会を月1～2回開催する

助成対象

講師謝金、保育のためのおもちゃなどの購入費を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

これまでは主に、参加する本人の自己実現や余暇支援のための活動を行うことで、「個」が活かされ、社会で認められていくことを中心に活動をしてきましたが、この助成をいただいたことで、本人をとりまく「家族」「地域」にも支援の輪をひろげることができることを実感しています。

これからも、近隣の子育て支援団体や、障がい児親の会、専門家とも連携しながら、地域全体で子育てを見守っていきたいと思っています。



「こどもの育つ力を育てる ふれあいコンディショニング体操」の様子



「身体」という視点から、普段の子育てにすぐに活かせるヒントなどを教えていただきました。

一般社団法人 結

代表者 柿本 啓子

三浦郡葉山町

助成金額
277,639円

団体紹介

設立年月

2015年6月

団体の目的・活動内容

障害福祉の増進に寄与することを目的として、具体的には障害のある未就学児の療育と就学児童の放課後の居場所作りです。

取り組んでいる活動の思い

三年前に発達につまづきのある未就学児や就学児童・生徒の為に余暇支援のボランティア団体を立ち上げました。(月2回程度の企画・集い)

児童の療育と保護者への心身両面からの支援を充実させる必要を感じ、2015年6月より葉山児童デイ結の事業を開始しました。

葉山町には、障がい児が通える施設が1ヶ所しかないことも課題で、障害のある児童「身辺自立」、「運動」、「認知コミュニケーション」、「集団生活」、「地域交流」等の活動を通して社会生活を営む可能性を広げたいと思い活動しています。

活動歴

月曜日から土曜日(祝日を含む)

午前9時半から午後6時

団体情報

住所 三浦郡葉山町堀内1836

TEL 046-887-0610

Mail hayamadayer@yui-or.jp

助成した事業・活動

児童発達支援事業及び放課後等ディサービス事業を行う葉山児童デイ結の開設

内容

葉山町には障がい児が通える施設は、未就学児が週2日程度使える通える児童発達支援センターしかなく、新規ディを開設した。

助成対象

職員の研修テキストや、個々の療育テキスト制作のためのコンピューター、レーザープリンター、iPad購入費を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

葉山町で初めての障害児の放課後支援の事業所として活動を開始するにあたり町の援助が望めず、厳しい運営の中私共の活動を理解し助成の決定をしてくだり本当に感謝しております。

助成を受けて、機材の充実が整い療育(療育指導や教材の作成など)などに役立っております。



公園遊び



NPO 団体との海遊び



ホットケーキ作り・造形お面づくり

団体紹介

設立年月

2015年1月

団体の目的・活動内容

・「なかまほいく@南林間」実施（親同士で子供を保育し合い預け合える仲間をつくるサークル
（おもに0-3歳の未就学児とその母）

取り組んでいる活動の思い

さがみ生活クラブ生協子育てプロジェクトで行われたアンケートや調査から、当事者のよびかけで始まったサークルに参加したメンバーが、せっかくできたつながりを続けていきたいという思いで自主サークルとして続けています。

短時間ではなかなか預け合う関係性は生まれないので、母子そろって定期的に集まり、季節の行事などを企画して楽しんでいます。

活動拠点は主に南林間付近。学童に使われている施設の空き時間を利用。時には市の施設を利用して集まっています。

活動歴

第一期：2015年5～7月（全10回）

第二期：2015年9～12月（全10回）

第三期：2016年1～3月（予定）

団体情報

住所 大和市南林間1-13-2

日神パレスステージ1F南林間デポー周辺で活動

助成した事業・活動

「なかまほいく@南林間せるくる」で子育てしやすい街づくり

内容

子を持つ母が時にはリフレッシュできるような講座を開いたり（その間はメンバーの半分が全員の子をみる）、交流を深めるようなイベントを開催

助成対象

集まるための会場費や今度続けるためのチラシなどの作成費用に助成

助成をうけて…の思い・メッセージ

自主サークルになってから、このような助成金をいただけることがわかり、大変ありがたく思っています。

一気に活動の幅が広がり、四季折々のイベント（ハロウィンやクリスマスなど）を楽しむような企画ができて、親子ともに楽しめているように思います。

子供はどんどん大きくなってしまいうため、メンバーの入れ替わりも必要となり、今度どのように継続するのか、企画する側にサポートがつけられないかなど課題があります。

親子ミニ運動会にて。玉入れならぬ、風船・新聞ボール入れをしてみました。なかなかうまくいかず…。



同じく親子ミニ運動会にて。親子入れ替えかけっこレース。入れ替えるだけで泣いてしまうので、予想以上に難しい！



ハロウィン仮装ミニパーティー。衣装を嫌がる子もいれば、うれしそうなる子も！



非営利型一般社団法人ファーストステップ

代表者 高橋 実生 川崎市

助成金額
189,670円

団体紹介

設立年月

2002年6月1日

団体の目的・活動内容

DV・虐待などの「ファミリー・バイオレンス」の当事者への総合的支援
食品ロスの解決と「ファミリー・バイオレンス」当事者や生活困窮者への食の支援を目的とした「フードバンク」活動
生活困窮世帯などへの総合的支援
コミュニティカフェなどの居場所づくり事業

取り組んでいる活動の思い

様々な社会保障制度の欠落のせいで、子どもから高齢の方、男性女性年齢問わず、貧困に陥る方がとても多い今の日本。神奈川県だけでも1年間に120人の餓死が起きているという現状の中で、「身近なところから餓死・生活苦による自殺をださないために」と活動を行っています。

ご寄付くださった方のものや募金にこめられた思いを大切にしながら、お渡ししている方にも「受け取ってくださいありがとうございます」という視点を大切にしていきたいと考えています。

貧困は、たんなる貧乏ではありません。社会的な交流や活動の貧困であり、必要な情報が手に入らない情報の貧困に陥ってしまいます。食だけで満ち足りるものではありませんので、なるべくお話しをしながら手渡していければ、と、フードバンクかわわへの設立に向けて動いています。

活動歴

週3回、川崎市内への配達

週1回、県央および相模原市の配達

不定期で遠方への発送

不定期で小田原市や平塚市、藤沢市、横須賀市、横浜市などへも配達

県内で講演し活動の広報

週4回、コミュニティスペース「みんなのいばしょ ふらっと」をオープン

団体情報

住所 川崎市多摩区菅馬場 1-13-5-101

TEL 070-6643-1953

Mail foodbank_kawasaki@family-v.jp

助成した事業・活動

フードバンクかわわ設立準備事業

内容

各地の行政や社協、市民団体などとの協働をひろめながら、講演会で内容を広く知ってもらい、各地にフードバンクの芽を開いていく（フードバンクよこすか、ひらつかが立上げ）

助成対象

広報資料印刷費・プロジェクター購入費用・会場費に助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

まず、講演に使うプロジェクターを購入できたことで、説明のわかりやすさを増やしていけますし、場所・設備を問わず、説明会や講演会を行えることはとても助かります。

また、広報資料をきちんと印刷ができたことで、より活動内容を知っていただけるようになりました。

これからも、各地で講演を開いて、フードバンクかわわ設立に向けて動いていきます。

そのためのご支援をいただけて、本当に感謝しております。

フードバンクを拡げる講演



相手の状況を考えて支援グッズをセッティング。

新規フードバンクの設立を応援していく全国フードバンク推進協議会の世話人に就任。



おおぜいの協力で成り立つフードバンク。お米の提供で支援くださっているトップアスリートの岩隈久志選手

1期～3期福祉たすけあい基金助成団体

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
1期	NPO 法人グランマ	横浜市	児童発達支援・放課後等デイ・サービスの運営	800,000 円 人件費料
	子育て支援 W.Co mon Ami	横浜市	オルタ館4階での親子ひろばの運営	350,000 円 人件費料
	街の家族実行委員会	横浜市	「人と人・技と技、皆が繋がる街の家族」の世代を超え地域をつなぐ活動	420,000 円 人件費料
	ひまわりの会	横浜市	地域の外国籍の子どもたちの学習支援サポート	600,000 円 外部研修費
	NPO 法人ワーカーズ コレクティブ協会	県域	障がい者、社会経験の少ない若者の就労支援・社会参加の場づくり	999,600 円 ジョブコーチ費
	大場町みんなのいえ W.Co 準備会	横浜市	大場町みんなのいえ・サロン&まちの台所の運営 (多世代が交流できる場、地域の働き場の運営)	500,000 円 人件費等
	NPO 法人ぶかぶか	横浜市	障がい者と地域の人との交流をはかる 「みんなでワークショップ」	493,500 円 会場費 講師費
	ReBit (リビット)	東京・ 神奈川など	LGBT(性的マイノリティ)のこどもも安心して相談できる保健室づくりプロジェクト@神奈川の活動	186,000 円 運営費
	N 大倉山ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	横浜市	大倉山ドキュメンタリー映画祭を通じて地域交流、地域の活性化をはかる活動	165,000 円 広報費等
2期	NPO 法人 Music of Mind	藤沢市	知的障がい者の音楽活動を通じた就労の場と繋がりづくり	678,710 円 楽器購入費等
	NPO 法人「CLIP・あこーん」 電話相談室	横浜市	心をつなぎ、心を結ぶボランティア電話相談事業 (寄り添いつつ相談に応じる無料電話相談)	558,200 円 家賃補助
	NPO 法人大和子どもミニ ディサービス W.Co もこもこ	大和市	子ども子育て新法による認可保育園移行に向けた支援	295,920 円 イス 12 脚等
	Charkhafa チャルカフェ	小田原市	親子で利用するキッズスペースの運営(子育て世代の地域社会づくりをめざす居場所づくり)	368,000 円 整備費用等
	おしゃべりッチ∞	横須賀市	孤立しがちな子育て中の親子ひろばの運営	17,000 円 会場費
	認定 NPO 法人エンパワメント かながわ	県域	1 万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン・次世代育成に学生がかかわる仕組みづくりプロジェクト	421,220 円 研修費等
	就学前親子のためのふれあい サロン「いぬぞう」	川崎市	新旧住民をまき込んだ就学前親子のための「ふれあいサロン」の運営	109,214 円 チラシ作製費
	NPO 法人ひまわりの会	横浜市	外国籍の子どもたちの生活サポート事業	100,000 円 研修費
	湘南小麦の会	湘南エリア	手づくり小麦で元気を分け合う交流会の開催(農を通じた認知症・障がい児者・ケア者エンパワメント)	150,000 円 脱穀機購入等
	アートが子どもたちを 訪ねて来る会	横浜市	フォスターケア(里親制度)で暮らす子どもたちを訪ねるアートプログラム(施設や里親家庭で暮らす子どもたちのアートを通じた「再認識した自分」発見)	160,000 円 ワークショップ の備品等
	NPO 法人アール・ド・ ヴィーヴル	小田原市	知的障がい者向けの多機能施設開設(障がい児の個性を輝かせる仕事を生み出す場づくり)	800,000 円 設備費一部
	神奈川わかものシンクタンク	相模原市、 県域	中学生を対象にしたみんなで楽しく「神奈川県防災副読本」作りと活用	286,636 円 印刷費一部

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
3期	NPO 法人楽竹会	横浜市	創作「竹琴太鼓」を使った高齢者による高齢者施設訪問演奏活動（高齢者の地域貢献活動）	200,000 円 データ解析費
	財団法人 神奈川県母子寡婦福祉連絡協議会	藤沢市	シングルマザー支援のための保育園開設（ひとり親家庭を支援する保育施設の増加をめざす）	500,000 円 工事費用一部
	NPO 法人たすけあい・ゆりの木	横浜市	高齢者・障がい者交流サロンの拡充とカフェの運営	100,000 円 備品購入費
	NPO 法人たすけあいいさむ	横浜市	エレベーターの無い大規模団地の上下移動支援の地域ワークショップ開催と政策提言活動	299,000 円 開催費用
	NPO 法人 W.Co ケアびーくる	大和市	移動制約者のための介護付き移動サービス事業	280,000 円 車検費用一部
	W.Co ゴジママ	横須賀市	ニーズに応える新規学童保育施設設立で、児童の放課後生活を支援する	450,000 円 運営費の一部
	NPO 法人ふじさわ団塊塾	藤沢市	生きててよかった、出前講座で生きがいつくり（元気な高齢者が要介護高齢者をサポートする）	170,000 円 備品費等
	NPO 法人まんま	横浜市	Baby サロンまんま@大和の運営（隣接する大和市での）乳幼児・親の居場所立ち上げを支援する	350,000 円 会場費
	NPO 法人ドリームエナジープロジェクト	藤沢市	ダウン症児の音楽ライブ活動による豊かな社会参加促進	510,000 円 交通費
	認定 NPO 法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク	県域	地域包括ケア・生活支援サービス訪問型サービス D（移動サービス）を推進する学習会、シンポジウム	450,000 円 チラシ費等
	PO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ	横浜市	不登校の子供たちの学習・相談交流室開設事業の拡張（居場所を見いだせない子ども・若者が安心して過ごす居場所のスペース拡張）	513,000 円 運営費の一部

福祉たすけあい基金スタート助成について

5期福祉たすけあい基金（2016年3月助成予定）

福祉たすけあい基金は年間2回の助成を行ってきましたが、下期の助成は、福祉たすけあいにかかわるアソシエーション等の比較的小規模な活動の立ち上げや活動初期等の基盤づくりを応援します。上期（6期）は通常の福祉たすけあい基金の枠組みで行う予定です。

助成対象事業活動時期…2016年4月～2017年3月

助成対象団体 ……団体設立後3年以内、直近の事業収入300万円未満の団体 法人不問

助成対象 ……事業・活動の立ちあげ、既存の事業・活動の拡大、既存事業・活動の運営維持、市民の共感を広げる事業・活動・家賃等のランニングコスト・設備費等

助成総額 ……総額は400万円、1件当たりの助成上限額40万円



志ある寄付をお願いします

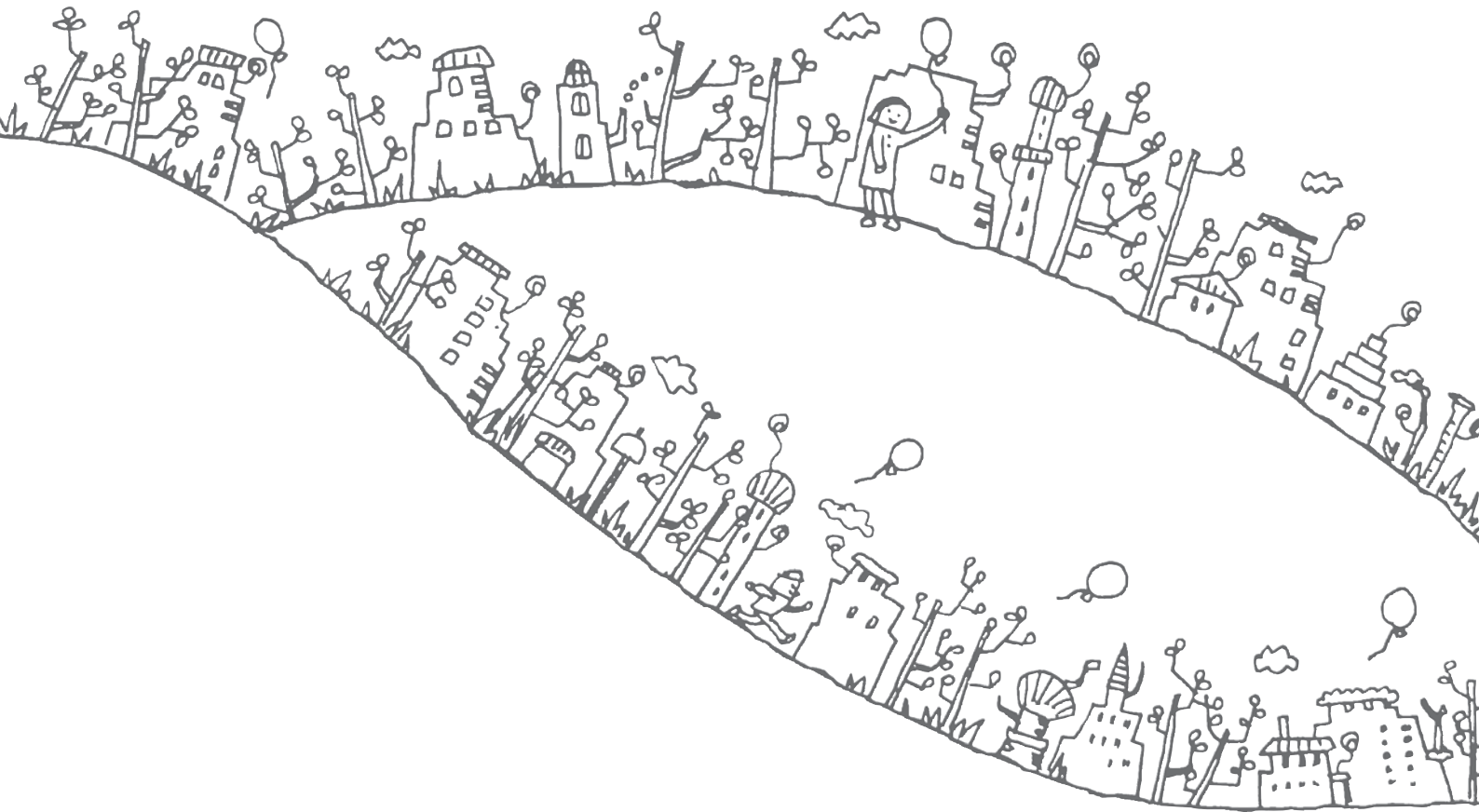
福祉たすけあい基金の活動をご支援ください。

福祉たすけあい基金は、地域の福祉たすけあいにかかわる活動を支援するために、志金の寄付募集を行っています。

月100円1年間1,200円を3月にご意志を確認したうえで引き落としさせていただきます。引き落としの金融機関はどちらでも可能です。停止される場合は、毎年の確認時にお申し出ください。

基金事務局までご連絡いただければ、詳細をご説明させていただきます。

生活クラブ生協の組合員の皆さんは、寄付登録されると、共同購入代金と併せて毎月100円を自動引き落としさせていただくことが可能です。



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日／2016年1月20日